

農商工が連携して魅力発信

「つがる市食と産業まつり」初開催



福島市長らがテープカットをして初開催を祝う



屋外では農業機械などの展示が行われた



地場産品を買い求める来場者



多くの来場者が訪れた食と産業まつり

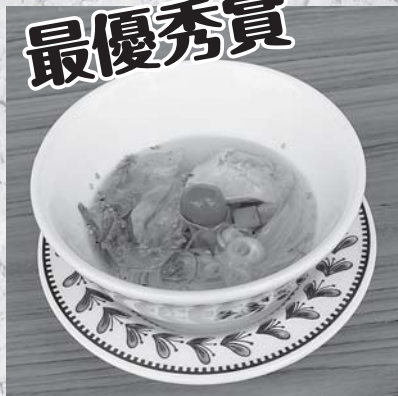
11月23日、24日、生涯学習交流センター「松の館」で「つがる市食と産業まつり」が開催され、多くの市民らで賑わいました。これは、農業と商工業の連携により農産物の高付加価値化や新商品開発を促進することを目的に初めて開催されたものです。会場では、地場産品を使った新名物コンテスト、農産物や加工品の販売、農業機械の展示、農商工連携ビジネスセミナーなど多彩な催しが開催され、農業関係者と中小企業が協力して市の魅力をPRしました。

「つがる市食と産業まつり」は、農商工の連携を強化するため、市産農産物や加工品を販売するこれまでの「つがる市農産物フェア」をさらに充実させるかたちで開催されました。開会式では、主催者である市商工会の宮本純一会長が「農家と商工業者の連携により6次産業の推進につなげていきたい」とあいさつ。福島市長が「農業者と商工業者がお互いの強みを結びつける機会であり、新たなビジネスの創出に役立ててもらいたい」と述べました。

地元農産物を使った「新名物コンテスト」には、1次審査を通過した6品が来場者に提供され、試食した市民らが2日間にわたって投票しました。審査の結果、稲垣町の農家・黒滝真希子さんの「ニンニク塩麹スープ」が最優秀賞に選ばれました。黒滝さんは「テレビの健康番組でニンニクと塩麹を合わせて一晩置くと、がん予防に効く成分が増えることを知り、野菜をたっぷり使って健康増進につながるメニューを考えた。つがる市には魅力的な食材がたくさんあることを改めて感じた」と話していました。「ニンニク塩麹

食彩つがる「新名物コンテスト」

最優秀賞



ニンニク塩麴スープ／黒滝真希子さん

野菜の切り方やだしの取り方は地元の郷土料理「けの汁」を参考にしました。みじん切りしたニンニクを混ぜた塩麴を一晚寝かせ、ニンジン、大根、鶏肉、ネギと煮込みます。食感を楽しめるよう春雨を加えました。味のアクセントにミニトマトも添えました。野菜をじっくり煮込むことで素材の味を引き出すことができました。



つがる包み込みパン／蝦名美咲さん

優秀賞【一般部門】



つがる豚ロール／相馬明仁さん

特別賞



つがるの生春巻き／工藤真菜さん

特別賞



ねばとろご飯／工藤詩菜さん



もちとなーがいもプリン／
台丸谷澄子さん



新名物コンテストの試食コーナー



新米の餅つき大会



しばた保育園の園児が太鼓を披露し盛り上げる



農商工連携により開発された新商品の展示



市産農産物が当たる
つがるちゃんとのじゃんけんゲーム

スूप」などのコンテスト出品作品は今後、市の新たな名物として市内業者により商品化が進められる予定です。

会場には新鮮な農産物や揚げたてドーナツなどの販売、農商工連携による新商品開発事例が展示されたほか、ステージイベントや餅つき大会なども行われ、来場者は、楽しみながら市の特産品の魅力や新たな可能性に触れていました。

協働のまちづくりへ意見交換

市自治会連合会が市政懇談会を開催

つがる市自治会連合会（林嗣郎会長）主催による「市政懇談会」が11月26日、生涯学習交流センター「松の館」で開催され、自治会長ら43人が福島市長や市職員と協働のまちづくりに向けて意見を交換しました。

はじめに林会長が「『より良いまちを創りたい』という思いは、市も自治会も同じ。知恵を出し合い、建設的な意見を交わしましょう」とあいさつ。特別テーマとして福島市長が3月に開院するつがる市民診療所について説明しました。その後、自治会が日頃抱えている課題や要望などについて福島市長、各部長らと話し合い、地域課題やまちづくりにおけるそれぞれの役割について理解を深めました。



日頃抱えている課題などについて話し合われた市政懇談会

市の道路施策（除雪）について

鶴見里自治会 会長 蝦名 とくゑ 氏

除雪時、家の入口へ雪の塊を置かれ、高齢者にとって片付けが大変です。高齢化社会に対応した除雪対策をお聞きます。また、吹きだまりにより道路が寸断される箇所がありますが、その対策も教えてください。



ら道路までの除雪経費に対しての助成事業を実施しており、昨年度も100件以上の利用がありました。また、宝くじのコミュニケーション助成事業や自治組織活動助成事業補助金で除雪機を購入し、高齢者の除雪奉仕を行っている自治会もあります。今後、市と自治会が一体となつて、高齢者対策を進めてまいりたいと考えております。

吹きだまり対策についてですが、除雪だけの対応では難しく、防雪柵設置が有効です。防雪柵設置については、特別吹雪く箇所で交通量の多い路線から順次整備しております。暴風雪時の対応策として、早期に気象情報を把握し、現場パトロールの徹底や除雪回数を増やすなど除雪体制の強化を図ってまいります。

（福島市長）
市では、冬期間の市民生活や道路交通を確保するため、除雪・排雪作業等に全力で取り組んでいます。住民ニーズ全てに応えることは困難な状況です。限られた時間内に重機で行う除雪のため、やむを得ず個々の家の入口にも雪が置いて行かれる状況となっています。市では、高齢者対策として高齢者福祉サービス事業の中で、玄関か

きめ細やかな除排雪体制の構築には行政のみならず、民間や市民の皆さんの協力が不可欠です。この「協働」によるまちづくりについて、今後ともご理解をお願いします。



質問をする吹原自治会の渋谷会長



回答する境福祉部長



あいさつを述べる林会長



つがる市民診療所について説明する福島市長

(福島市長)
近年、全国各地で地震、台風、集中豪雨等の自然災害により、大きな被害が発生しています。その態様も大規模化の傾向を示しています。特に、先の東日本大震災により全国的に地域の防災に対する関心が高まったと思います。

つがる市も例外ではなく、台風に伴う大雨により浸水被害が多く発生しています。中でも、今年9月の台風18号に伴う大雨により岩木川が増水し、柏地区の一部に避難指示を発令しており、市民の防災に対する意識が



近年、さまざまな災害が発生し、地域の防災に関する関心が高まっている中で自主防災組織の重要性、必要性が叫ばれております。市の現状と今後の取り組み方についてお聞きします。

強くなっていると思います。現在、つがる市における自主防災組織は18団体となっており、平成22年4月に繁田自主防災会、本年8月に菟中自主防災会がそれぞれ結成されています。いずれも既存の自治会・町内会組織を自主防災会として結成されており、家庭用火災報知機の設置や視察研修など活発な活動が行われています。

大規模な災害が発生した直後は、防災機関による対応が困難なこともあり、地域住民がお互いに助け合い、人命救助や初期消火にあたることで被害をより少なくすることにつながるため、地域住民による自主防災組織等の結成を促進し、育成していくことが重要と考えています。

市では昨年9月、県と共同で自主防災組織の組織化の推進を皆様方に文書で呼びかけたところです。また本年も、県と共同で松の館を会場に、地域防災力の考え方と進め方についての講演など研修会



地域防災力向上を目的に開催された研修会
(平成25年9月7日、松の館)

を開催し、その啓発に努めているところとです。

結成された団体には、コミュニケーション助成金や県の補助金を利用し、発電機、テント、AEDや炊飯装置などの備品の整備や先進地研修に対する支援を行っています。

「自分たちの地域は、自分たちで守る」という意識の醸成を図るため、これまで以上に、各種研修会の開催や先進地の紹介などにより組織の必要性をアピールしながら、組織率の向上に努めていきたいと考えています。

自主防災組織について

横町町内会 会長 粕谷光彦氏